Livel Altib

ARTIFICIAL INTELLIGENCE



Pytoreh #



講座の内容

第1講. イントロダクション

第2講. PyTorchで実装する簡単なディープラーニング



第3講. PyTorchの様々な機能

第4講. 畳み込みニューラルネットワーク(CNN)

第5講. 再帰型ニューラルネットワーク(RNN)

第6講、AIアプリのデプロイ

今回の内容

- 1. 第3講の概要
- 2. 自動微分
- 3. エポックとバッチ
- 4. DataLoader
- 5. 演習
- 6. 質疑応答

教材の紹介

• Pythonの基礎

・第3講の教材: autograd.ipynb

: dataloader.ipynb

・第3講の演習: exercise.ipynb

ハッシュタグ

#Live人工知能

演習の解答-第2講-

https://github.com/yukinaga/lecture_pytorch/blob/master/lecture2/exercise.ipynb



自動微分とは?

- 自動微分(Autograd)
 - → Tensorの各要素による微分を自動で行う機能
 - → 演算内容と経路(計算グラフ)が保持され、

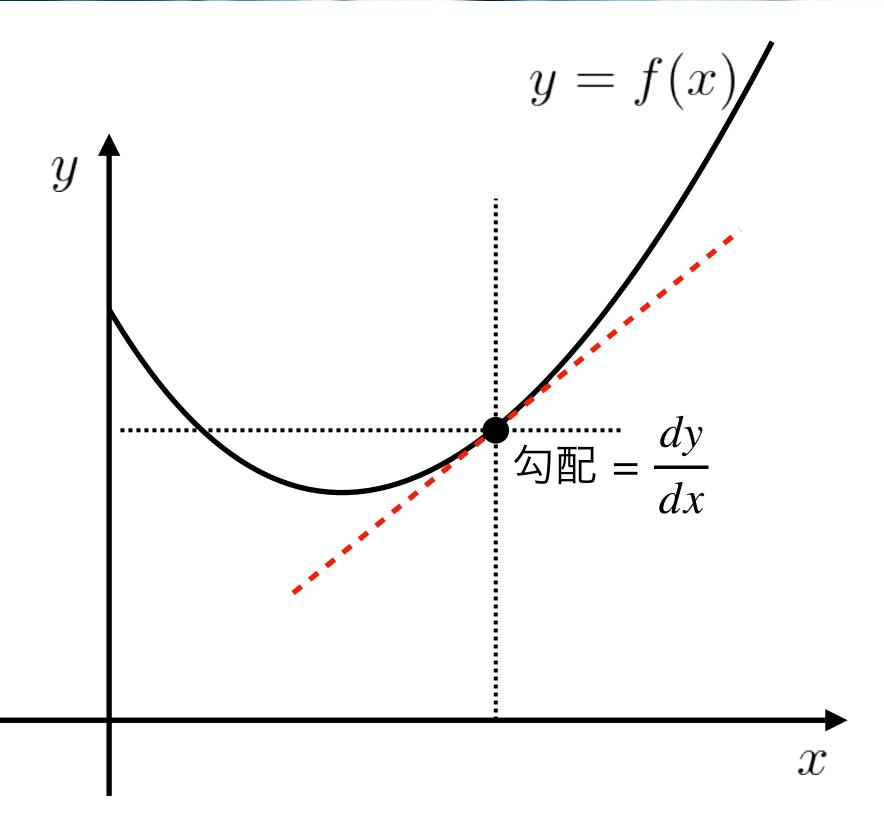
順伝播の経路を遡って「勾配」が計算される

→ 複雑な計算グラフであっても簡単に勾配を計算することができる

微分とは?

微分により、曲線上のある点における 「勾配」を求めることができる

右図における勾配は、xの微小変化に対するyの微小変化の割合



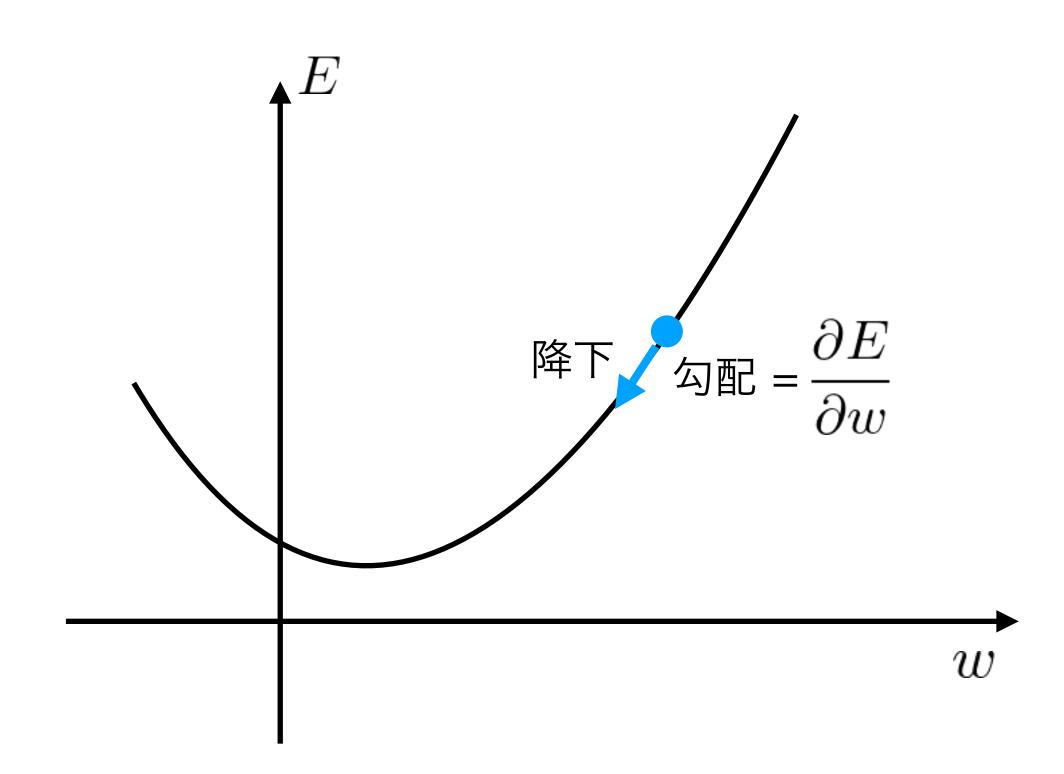
復習: 勾配降下法による誤差の最小化

$$w \leftarrow w - \eta \frac{\partial E}{\partial w}$$

w: 重み

 η : 学習係数

E:誤差





エポック、バッチとは?

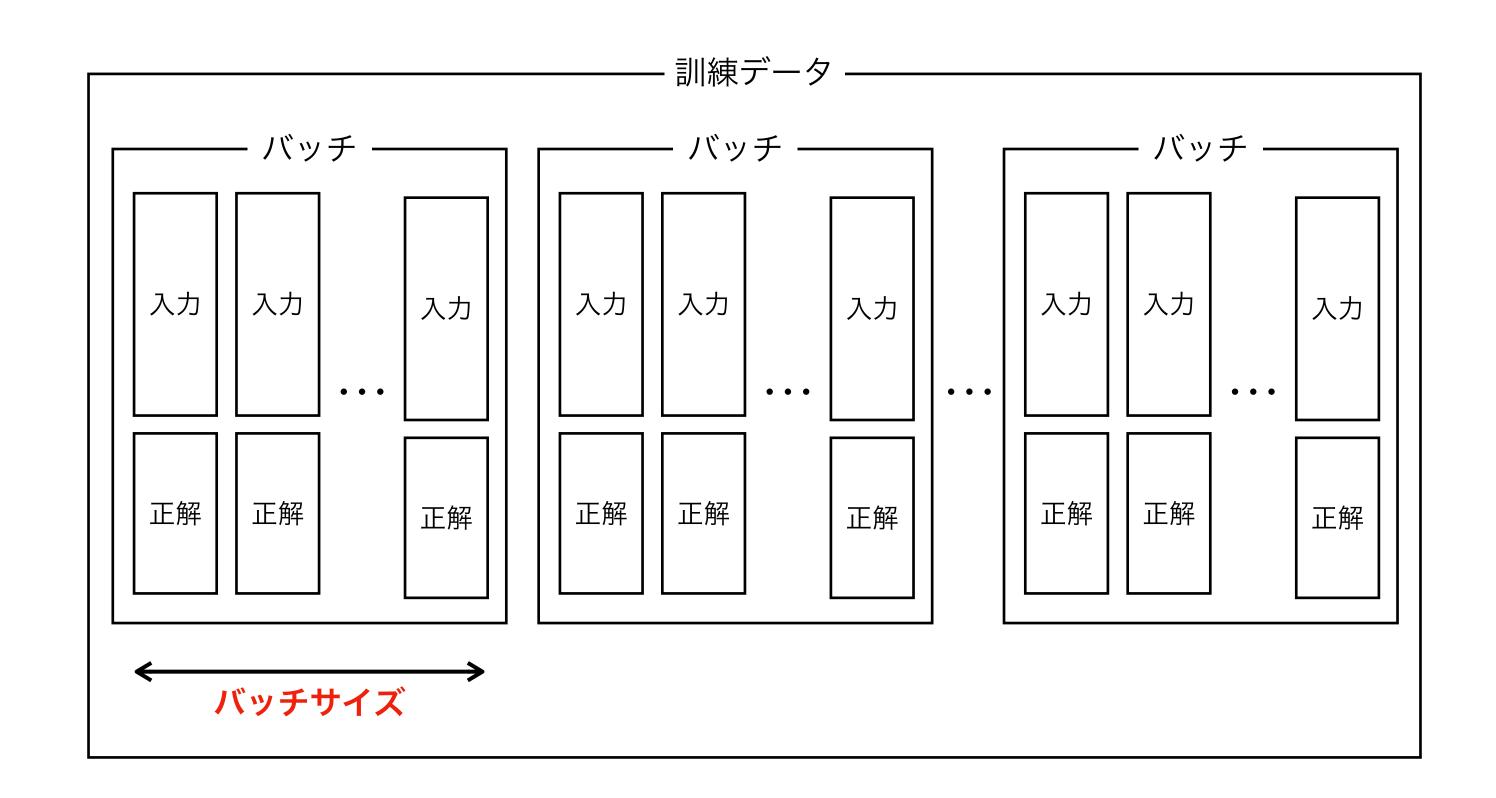
エポック (epoch)

- → 全ての訓練(学習) データを1回学習することを、1エポックと数える
- → 1エポックで、訓練データを全て使い切る

バッチ (batch)

- → 入力と正解のペア (ここではサンプルと呼ぶ) の集合
- → バッチごとに学習が行われる
- → 「バッチサイズ」はバッチに含まれるサンプルの数
- → 1エポック分の訓練データは、複数のバッチに分割される

訓練データとバッチサイズ



バッチと学習方法

バッチ学習

- → バッチサイズは訓練データの数に等しい
- → 全ての訓練データを1度の学習で使い切る

オンライン学習

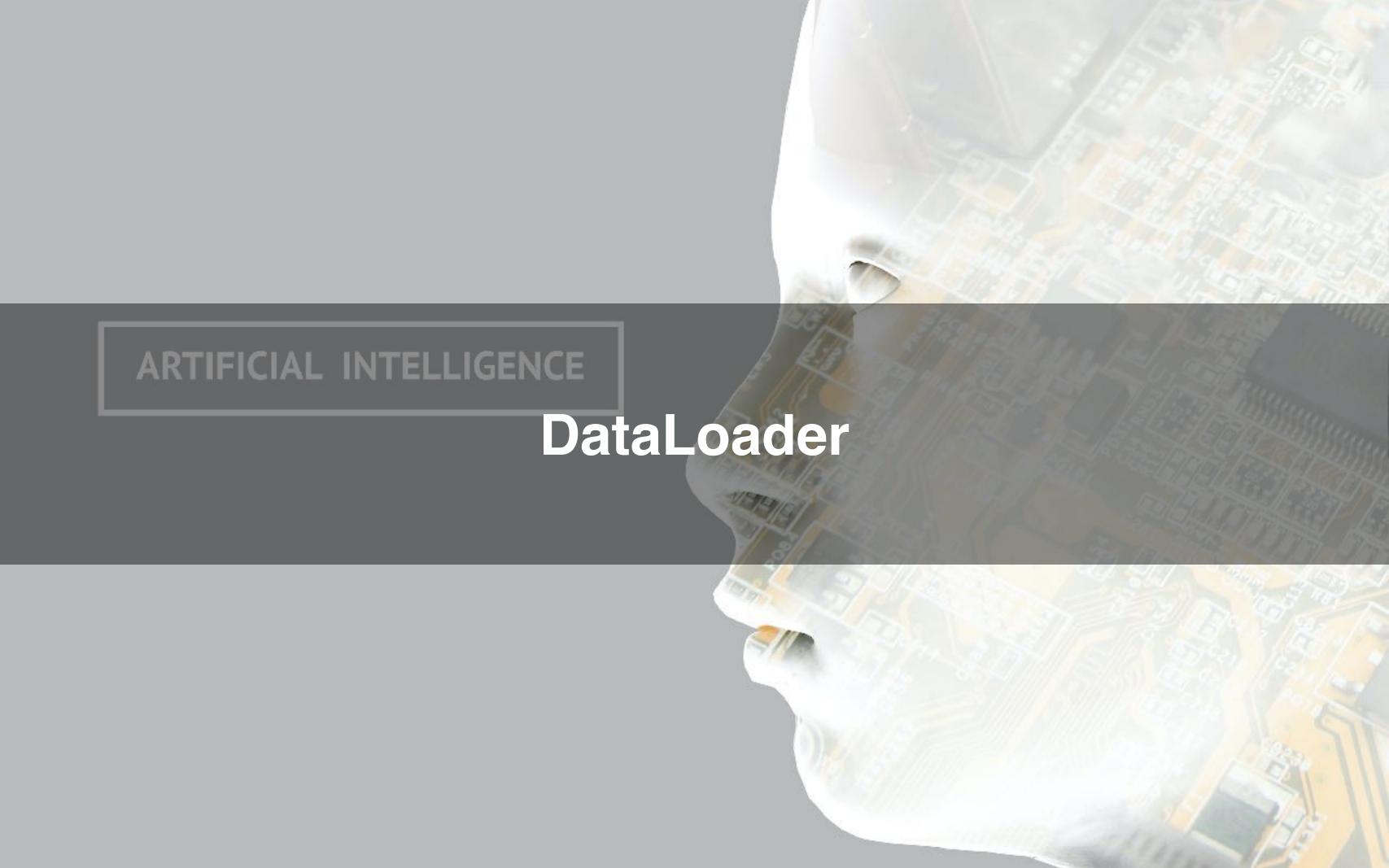
→ バッチサイズは1で、1エポックの学習回数は訓練データの数に等しい

ミニバッチ学習

→ 訓練データを小さなサイズのバッチに分割し、バッチごとに学習する

ミニバッチ学習の例

- 訓練データのサンプル数が1000の場合
 - → 1000のサンプルを全て使い切ると1エポック
 - → ミニバッチ学習の場合、例えばバッチサイズを50に設定すると、
 - 1エポックあたり20回学習が行われる



DataLoaderとは?

DataLoader

- → データセットからデータをバッチサイズ ごとにまとめて返す
- → バッチはランダムに取得することが可能
- → データの読み込み、前処理、ミニバッチ法を

簡単に実装することができる

CPU、GPU、TPU

- **CPU** (Central Processing Unit)
 - →コンピュータにおける中心的な処理装置
- **GPU** (Graphics Processing Unit)
 - → 画像処理に特化した演算装置だが、画像処理以外でも活用される
 - → CPUよりも並列演算性能にすぐれ、行列演算が得意
 - → ディープラーニングでよく利用される
- **TPU** (Tensor processing unit)
 - → Google社が開発、機械学習に特化した特定用途向け集積回路

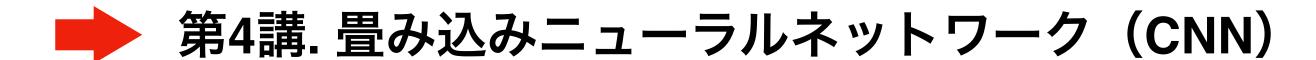


次回

第1講. イントロダクション

第2講. PyTorchで実装する簡単なディープラーニング

第3講. PyTorchの様々な機能



第5講. 再帰型ニューラルネットワーク(RNN)

第6講. AIアプリのデプロイ

